

9月 虹だより

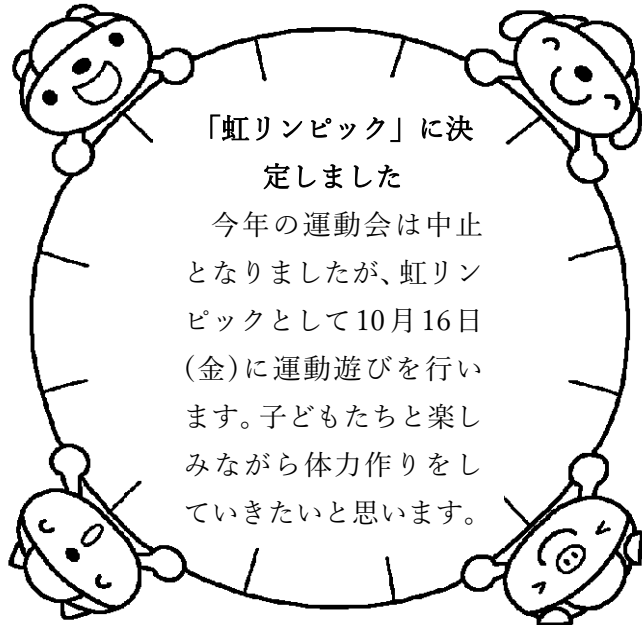
令和2年9月虹のこころ保育園

今年の夏は気温も休暇も短期集中型となったようです。皆さんはどのような夏を過ごされたのでしょうか。

さて、気候は秋の兆しが見られ、吹く風もひんやりと感じられるようになりました。これからこの秋の良い気候の中で、体を大いに動かし、冬に耐えられる体力づくりに力を注いでいきたいと思います。

お知らせ

政府及び八千代市からの伝達により、園児及び家族に発熱、倦怠感等の体調不良の方がいる場合は、登園を控えていただく文書が届いています。しばらくの間ご協力をお願いいたします。



「虹リンピック」に決定しました

今年の運動会は中止となりましたが、虹リンピックとして10月16日(金)に運動遊びを行います。子どもたちと楽しみながら体力作りをしていきたいと思います。

9月予定

- 24日(木) 誕生会
(各クラス)
- 25日(金) 避難訓練



失敗を乗り越えてこそ自信がつく

子どもがちょっとけがをしたときに、大騒ぎをするお母さんがいますが、それは、けがを恐れる子どもを作り出し、危険に「挑戦」する「意欲」を失わせてしまいます。実は、安全教育というのは冒険教育を通じて実現しなければならない…というのは二十年来の私の考えです。安全教育が、子どもを過保護に扱うことによって、かえって子どもに事故を起こさせていることが、研究によって分かったからです。つまり、小さなけがをしながら成長していくことが、子どもの人格形成には重要な意味を持っているのです。ただし、子どもが冒険しているときには、それを見守っていることを忘れてはなりません。ある施設では、木登りを奨励しました。できるだけ高いところまで登るように励ましました。しかし、私は子どもから絶対に目を離しませんでした。それは、大人が見ていてくれるとなると、子どもは慎重に行動するからです。富士宮市に野中保育園があって、塩川一家で「大地保育」を実施していますが、子どもたちは卒園するまでに八メートルの棒に登ることが出来るようになるのです。それだけの能力を子どもたちが持っていることに、わたしたちは信頼の気持ちを持つことが必要です。しかし、それは一、二歳のころから少しずつ高いところに登ってみるという「挑戦」を繰り返すことによって実現されます。その間に滑り落ちて手や足を痛くするという経験をしながら、滑り落ちないようにするためにどうしたらよいかを考えているのです。

「親は神殿も未来をひらく」医学博士 平井信義より抜粋

小さなうちの挑戦はそれほど危険ではないことがほとんどです。小さいうちから危険を体験することで年齢に見合った怪我で済みますし、自己防衛を獲得していく大切な瞬間です。年齢に合った挑戦を見守ることの大切さが伝わる一説を紹介しました。

保護者面談のお知らせ

9月1日より保護者面談が始まります。お忙しいとは思いますが、日頃のお子さんの様子をお伝えしたり、家庭での様子をお伺いしてお子さんのより良い成長をご一緒に見守りたいと思いますのでよろしく願いいたします。

また、面談の期間は、保育園からの連絡ノートの記入は重要なことのみとなりますのでご理解いただきたいと思います。活動内容はクラスごとのホワイトボードに記載します。ご確認ください。